

-Index- 第14回「きこえない」を知る二日展報告 vol.1

- ・手話タウン
(日本財団、香港中文大学、Google および関西学院大学)
- ・ろう者による「ろう通訳」
子どもたちの声 — コロナ禍 —
第10回「みみネット アカデミー」ご案内



紙上報告 (vol.1)

第14回「きこえない」を知る二日展

11月13日に、本校文化祭にて第14回「『きこえない』を知る二日展」を開催しました。今年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、本校の在籍幼児児童生徒とその保護者以外の方の来場はない状況での展示会(1日開催)となりました。

今号および次号で、展示会の様子を報告します。



- 手話タウン
(日本財団、香港中文大学、Google および
関西学院大学)
- ろう者による「ろう通訳」
—東京2020オリンピック・パラリンピック—
- デフリンピック
- 好きなスポーツ やってみたいスポーツ

手話タウン (日本財団、香港中文大学、Google および関西学院大学)

ゲームで学ぶ手話表現

前回のみみネット (No313) でもご紹介した「手話タウン」を、実際に体験するコーナーを設置しました。参加者は、手話表現(日本手話もしくは香港手話)にチャレンジするゲームを楽しみました。



たくさん子どもたちが、カメラの前で手話表現を行い、アイテムを集めることに夢中になっていました。また、香港手話を選んだ生徒や保護者は、日本手話と似ている表現もあれば異なる表現もあることを実感し、その都度、「へえ〜!」と感心しながら手話表現にチャレンジする様子が見られました。

「手話タウン」は、オンライン環境とカメラ付きのパソコン(カメラが無い場合には、別途ウェアラブルカメラを接続)があれば、気軽に楽しむことができる手話学習ゲームとなっています。「手話やろう者を理解する入り口」として、ぜひお試しください。

見本の動画を確認してから、実際にカメラの前で手話表現をします! 正確に表現できると、次のステップに進むことができます。

(参考)

SureTalk ホームページ

<https://www.suretalk.mb.softbank.jp/>

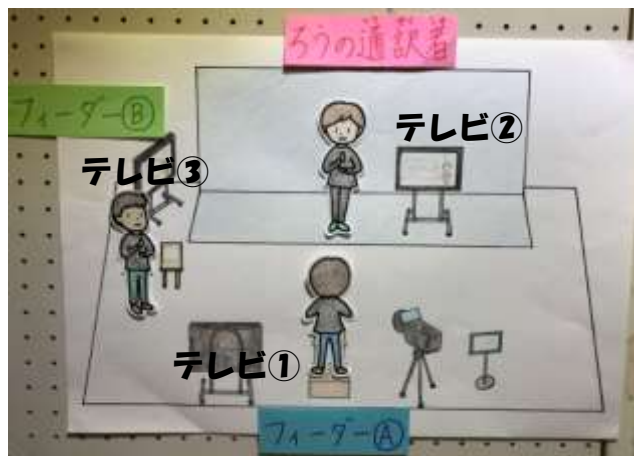
日本財団ホームページ

<https://www.nippon-foundation.or.jp/>



ろう者による「ろう通訳」

東京 2020 オリンピック・パラリンピック



ろう者による手話通訳 = ろう通訳

先日行われた東京 2020 オリンピックの閉会式やパラリンピックの開会式・閉会式では、手話通訳による豊かな表現によって、その場の臨場感が伝えられました。その通訳を担っていたのが、**ろうの通訳者**です。ろうの通訳者は、聴者であるフィーダーと協力しながら、視聴者に音声情報を伝えていました。

ろうの通訳者



フィーダーA (きこえる人)



きこえる手話通訳者がする手話をそのまま表すのではなく、よりわかりやすい手話表現にかえて、通訳をしています！

テレビ①からの音声をきいて、テレビ②を見て、手話通訳をします！

何も音声が出ていないとき、ろうの通訳者はテレビ③を見ています。音声が出たときはフィーダーB（きこえる人）がろうの通訳者に教えます。よりわかりやすい手話表現でリアルタイムに情報を伝えるための工夫や取り組みを知り、来場者の多くがあらためて驚き、感心している様子が見られました。

次号では、「デフリンピック」「好きなスポーツ やってみたいスポーツ」の展示内容について、ご紹介します。

子どもたちの声 — コロナ禍 —

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、教育現場においてもマスクの着用が徹底されるようになってきました。本校の子どもたちや教員も、原則マスクを着用していますが、口形や表情の動きは、きこえない・きこえにくい子どもたちにとって、とても大切な視覚情報のひとつです。

子どもたちは、補聴器・人工内耳からの音声や手話、話の流れ、口形などをもとに、会話の内容を理解しています。きこえ方は個人差があるため、状況はさまざまですが、本校中学部の生徒に「コロナ禍で困った場面は？」と尋ねると、次のような内容を述べていました。

- 「お店の人の話していることが分からない」
- 「コンビニの『袋はいりますか？』『カードですか？』が分からない」
- 「マスク着用で何を言っているか分からない…コミュニケーションって大変」

手話や口形がない環境で、それぞれ困り感を抱いている様子が、ひしひしと伝わってきます。「困った場面では、どのようにして解決しているの？」と尋ねると、「(きかれることがない

ように) 袋やカードなどを、先に出す」「メモを出して、理解してもらう」などの対応策とともに「コロナが収まるまで待つしかない…」といった返事がありました。

一方、学校では教育活動等の必要な場面で1~2m以上の距離をとりながら、透明のフェイスシールド等を着用することがあります。先生が授業中に説明している内容の理解について「新型コロナウイルス感染症が流行する前と比べて、特に変化を感じない」と発言した生徒に、その理由を尋ねると、複数の生徒が「透明マスク、フェイスシールドをつけているから」とこたえていました。その他にも、「もし分からなくても、もう一回お願いしますと言えるから」「(以前に比べて)手話・指文字をゆっくり丁寧にしてくれるから」「テレビを使って説明してくれるから」などの理由を挙げる生徒もいます。もし分からなくても「もう一回」と言える環境や、手話・指文字の使用、ICT機器の活用など、子どもたちは教員側の意識の変化・工夫を感じ取っているようです。

尚、透明マスクやフェイスシールドも種類が増えてきましたが、課題は多く残っています。透明マスクやフェイスシールドを使用する場面では、子どもと距離をとる必要があります。その際、やはり口形が見えにくくなります。また、光を反射する性質があるため、使用場面によっては見づらいことがあります。

<フェイスシールドA>



こちらは、同じ会社で販売しているフェイスシールドです。フェイスシールドAとBは、どちらも透明で同じ形状となっていますが、よく見ると違いがあります。

フェイスシールドAが、通常のフェイスシールド(くもり止め機能付き)です。角度によっては、蛍光灯の光が反射してしまうため、口元や表情が分かりづらくなります。

フェイスシールドBは、反射防止機能付きのタイプになります。画面反射防止加工(可視光線透過率99%以上)が施されているため、光のちらつきや乱反射、眩しさなどが軽減されます。

<フェイスシールドB>



子どもたちは、日頃から視覚的な情報を頼りにしているため、知らず知らずのうちに目を酷使しています。「フェイスシールドで口元を見せているから大丈夫」とは思わず、子どもの立場に立って、確認する必要があります。

第10回 みみネット アカデミー

本校には、聴覚障がい教育に関する高度な専門的知識や技能をもつ教職員が多数います。その知識・技能の提供および伝達をとおしてセンター的機能を果たすため、「みみネット アカデミー」を開催しています。本紙「みみネット」から、さらに一歩進んだ内容となっています。ぜひご参加ください。

<期 日> 令和4年1月7日(金)

<対 象> 大阪市および守口市内の学校園・大阪府下の

高等学校および支援学校の教職員



<プログラム>

13:30~

受付

13:45~13:50

開会式(挨拶、諸連絡)

13:30~14:50

Lesson 1「神経心理学から見た脳とことば

~ヒトはどのようにことばをつかっているのか~」

講師 金森 雅(本校小学部教諭)

15:00~16:00

Lesson 2「手話の世界を覗(のぞ)いてみませんか」

講師 堀谷留美(本校首席) 古樋咲世(本校聴覚支援センター教諭)

志村昌彦(本校小学部教諭) 明石慈英(本校中学部教諭)

16:00~

閉会式

申込締切: 12月17日(金)

<定 員> 25名(定員になり次第締め切ります)

<会 場> 大阪府立中央聴覚支援学校(大阪府中央区上町1-19-31)

<申込み> 学校園にメール配信している申込用紙に必要事項をご記入のうえ、郵送か通送、またはFAXにて下記までお送りください。

通送便 ▶ 中央区 大阪府立中央聴覚支援学校 支援部宛

郵 送 ▶ 大阪府中央区上町1-19-31 大阪府立中央聴覚支援学校 支援部宛

F A X ▶ 06-6762-1800

<お問い合わせ> 大阪府立中央聴覚支援学校 支援部(担当: 木村)

電話: 06-6761-1419 / FAX: 06-6762-1800

(8:30~12:15 13:00~17:00)

「みみネット」編集部:

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当: 中咲、金森

〒540-0005 大阪府中央区上町1-19-31

TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800